



平安だより 2021年11月号 平安幼稚園

「神様からの問いかけ」牧師・園長 江間紗綾香

『いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。』

どんなことにも感謝しなさい。』

(テサロニケの信徒への手紙一 五章一六～一八節)

私にとってこのみ言葉は命令ではなく、神様からの問いかけだとも思っています。つまり、「いつも喜んでいますか？絶えず祈っていますか？どんなことにも感謝していますか？」と神様から問いかけられているように感じます。そのように感じるようになったのは、函館での教師生活でたくさんを経験をさせてもらってからです。

「いつも喜んでいますか？」

以前の園だよりも書きましたが、教師時代の私は「くない族相手に〜してくれないと不満を持つこと」だった時期がありました。生徒が動いてくれない、言うことを聞いてくれない、そのように思っていたことがあります。しかし、滋賀県近江八幡市にある止揚学園の先生から、そこで生活されている方々の話を聞き、不満ばかりの自分に気づかされました。止揚学園の方々はどんなに小さなものにも優しい眼差しを向け、愛を注いでいます。その心に触れた時、愛すべきものや喜びは身近にたくさんあると知り、小さな事にも目を向け、喜びを見出すようにしました。そう変えられた時、不満が少しずつ減っていき、心が軽くなりました。

「絶えず祈っていますか？」

学校行事、特に宗教行事を通して、様々な分野で活躍され

るキリスト者の方々に出会う機会が与えられました。また、バンングラデシュでも忘れ難い出会いがたくさんありました。その他、教え子達、過ごした教会の皆さんなど本当にたくさんの方と出会いました。そして、その出会った人々は祈りに覚える人となりました。これからは平安幼稚園で出会った子供達や保護者の方々も祈りに加わることとなります。祈る相手は増える一方ですが、神様を通して増えるつながりは何にも代えがたい喜びです。その方々がいつも神様に守られ、平安な道を歩むことができるように祈るばかりです。

「どんなことにも感謝していますか？」

大人になり、ちよつとしたことに「ありがとう」と声を出す機会がなくなっていることに気づくことがありました。やってみたら当たり前とは思っていないのですが、声に出すことがなかったのです。ところが、バンングラデシュに行った時、現地のスタッフや子供達が私達のためにしてくれることが嬉しくて、たくさん「ドンノバット(ベンガル語で「ありがとう」の意)」と書いていました。たった二週間でしたが習慣化され、帰国後も「ありがとう」と声に出して言うようになっていました。「ありがとう」と言うとき温かく、柔らかい心でいられるような気がしています。

もちろん忙しさを言い訳にして、喜びも祈りも感謝も後回しにしてしまうことがあります。そのような状況に陥ると、このみ言葉が迫ってきます。その時、私達の生活にこの三つが必要だと改めて思われます。それは子供達にとっても同じです。子供達の生活が喜びに溢れることで心が充実し、祈ることや感謝することで他者を思う心が生まれてくるのです。そうした心が育まれるよう、小さな事に目を向け、共に感じることでできる保育を心がけ続けていきたいと思うのです。何より、子供達と共に祈り、喜びを分かち合える毎日に感謝するばかりです。